

第 54 回日本 PTA 関東ブロック研究大会山梨大会 参加報告

富士市 PTA 連絡協議会

会長 服部 英之

10月15日(土)、16日(日)にて第54回日本PTA関東ブロック研究大会山梨大会に出席しました。大会は、スローガン『みんなで生きる みんなで育つ ～この甲斐(会)から発信 子どもと大人 共に歩み 共に考え 共に創る～』を基に、子どもたちを取り巻く環境は、様々な問題を含み多岐にわたり複雑化しているような状況下で、私たちPTAが担う役割はますます大切になってくると考えられている中、子どもたちの成長のためのより良い環境づくりに寄与するPTA活動の後押しとなることを願って開催されました。

分科会では『安全・安心』を研究課題にしている、第4分科会に参加させていただきました。

子どもたちを取り巻く教育環境が激しく変化する中、子どもたちの安全・安心を守るために、地域の大人がどのように関わっていったらよいか、取り組みや活動の工夫を考えると共に具体的な実践を行うこと。子どもたちが、地域の自然環境や歴史・文化を学ぶと共に、自然体験活動や防災学習を行うことにより、安全・安心に対する意識を高め、安全への実践力を育てること。等を目的にしていました。

令和3年に富士山ハザードマップが改定され、噴火による影響範囲は大きく変わりました。

その際に噴火の際の避難方法は『原則徒歩による避難行動』を行なうことも示されました。

第4分科会の開催地である富士吉田市の「ある小学校」では、想定された一番近い位置で噴火した場合は、最短で2時間以内で溶岩流が到達してしまうと予測されています。

国内における自然災害のほとんどは、知識×経験×意識で回避できる可能性はありますが、火山噴火による災害は、概ね逃げる以外に手はなく、そのため逃げる方向が重要となります。(“意識”が重要)

そこで、東日本大震災の“大川小の悲劇”を繰り返さないためにも、従来の避難訓練に加え富士山噴火の際の「徒歩による避難訓練」と「保護者との引き取り訓練」を学校が企画し、保護者としてはもちろんPTA活動の一環として、避難経路の交通安全や救護所運営等の安全・安心サポーターとして参加したそうです。富士市のほとんど地域は、溶岩流が短時間で到達する想定ではありませんが、従来の地震のみならず火山(噴火)の防災教育と避難訓練に力を入れても良いのでは?と感じました。

その他の研究発表でも、PTAから地域へのサポート・地域防災への取り組み・企業等とコラボしてPTA・子ども達の意識が変わった事例等もあり、とても楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。

私たちPTAが子ども達を安全・安心のために出来ることはなにか?市P連として何が出来るか?と考えさせられ、また他県他市等のそれぞれのPTAの考えを知る貴重な機会となりました。

ここで学んだことを活かし、安全・安心で子ども達を守ることが大事だということを改めて思いました